



国立大学法人 九州大学 ～健康安心社会の実現に向けた 医療体制整備及び医療開発～

総長メッセージ

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちが生きるこの時代が、予測不可能なものであるという現実を世界に突き付けました。この状況を打破するためには、人類の叡智の結集が今こそ必要であり、その叡智が集まる大学が果たすべき役割は大きいと感じています。

九州大学は、健康安心社会の実現に向けて、病院のゲノム医療体制整備を実施し、人々が幸福と思えるような社会の実現を目指し、医療の発展に貢献していく所存です。



九州大学総長 石橋達朗

寄付テーマ

～健康安心社会の実現に向けた医療体制整備及び医療開発～

【医療体制整備】

健康安心社会の実現に向けたゲノム医療体制の拠点形成による地域医療への貢献

ご寄付いただいた場合

◆寄付金は寄付金控除の対象となります。

- ・ 12月頃、寄付金の領収証を郵送します。
- ・ 寄付金控除を受けるためには、確定申告の際に上記の領収証が必要になります。

◆活動状況を報告します。

- ・ 毎年発行しています「九州大学基金活動報告書」を郵送し、活動状況を報告します。

◆九大会員として顕彰、九大会員証を発行します。

- ・ 「九大会員」として顕彰し、九大会員には各種特典が利用できる「九大会員証」を発行します。



団体連絡先

国立大学法人九州大学総務部同窓生・基金課

福岡市西区元岡744
TEL:092-802-2150
E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp HP:https://kikin.kyushu-u.ac.jp/



健康安心社会の実現に向けたゲノム医療体制の拠点形成による地域医療への貢献

ご支援でできること

健康安心社会 ～全ての人が安心してゲノム医療・研究が受け入れられる環境づくり～

ゲノム情報と家系情報は患者さんやご家族の医療や健康管理に役立つ可能性があります。これらの情報の漏洩を防止し、地域医療で活用できる共有可能なシステム構築に取り組みます。



希少遺伝性疾患 ～情報・医療・社会から孤立させない、場づくり～

数千から数万人に1人という希少遺伝性疾患の場合、周囲に同じ状況の人がおらず孤立することも少なくありません。遺伝カウンセリングを通じて、医療だけでなく心理社会面でも孤立を防ぐお手伝いをします。



教育・普及啓発 ～ゲノムを正しく理解し、多様性を認める社会へ～

正しく理解することで、不安が解消されることがあります。知らないことで、無意識のうちに偏見や差別をもっているかもしれません。市民の皆さんや医療従事者が「ゲノム」について正しく学ぶ機会をつくります。



ご寄付の用途

持続可能な臨床遺伝医療体制を地域に根付かせるための活動を行います。

●ゲノム医療及び遺伝カウンセリング研究・育成支援

遺伝カウンセリングが浸透したゲノム医療体制の構築に活用します
本邦ではまだ数が少ない遺伝カウンセリング研究及び認定医遺伝カウンセラーの育成に活用します

●ゲノム情報・家系情報管理システムの整備・維持

ゲノム情報・家系情報管理システムを整備しその維持のために活用します

●情報発信・普及活動

若手教育や人材育成、市民交流会や遺伝教育のツール開発等へ活用します



ゲノム医療とは？

ゲノム医療とは、私たちの生まれ持った遺伝子やがん組織に認められる特徴的な遺伝子を幅広く解析し、その結果をより効果的で効率的な治療や健康管理に役立てる医療です。例えば、がんゲノム医療では、がんの原因となる遺伝子の病的な変化に基づいて、治療方法が選択されます。

遺伝カウンセリングとは？

遺伝について不安や悩みがあるご本人やご家族に、遺伝や疾患についての正しい情報を提供し、自律的な意思決定をサポートする場です。

当院でのご相談には、遺伝や遺伝子に詳しい臨床遺伝専門医の資格をもつ医師や認定遺伝カウンセラーが担当します。